

☀️☁️☀️ 余市町でおこったこんな話 ☁️☂️☁️

余市町でおこったこんな話 その155

余市町の埋もれた歴史等を紹介し、改めて余市町を再認識するコーナーです。

北海ソーラン祭り (その1)

北海ソーラン祭りの第1回目は昭和44(1969)年に始まりました。この年はちょうど余市町開基100年と開町70周年の年にあたり、それを記念して開催したものとされています。北海ソーラン祭りの始まる前、昭和30年代には「商工観光まつり」などさまざまな催し物がありました。

昭和30年代の余市町広報や新聞記事などを見ると、ソーラン節を含む沖揚げ音頭の唄い手を無形文化財として町が指定したのが昭和36年7月、時期を同じくして有志によるソーラン節保存会も結成されています。同年8月15日には旧豊浜トンネル入口近くに建立

▼ソーラン節保存会の踊り (昭和36年8月17日の新聞記事より)



「ソーラン節」の除幕式、同保存会による50人

「ソーラン節」の除幕式、同保存会による50人、同39年8月18日の商工観光まつりを伝える記事では、見出しに「女ミコシもねり歩く ずぶぬれの仮装パレード」とあります。商店街の店主たちが仮装をして町内をパレードをしました。自衛隊

のブラスバンドを先頭に、大川商店街の関係者がサムライ姿、黒川商店街は女ミコシ、沢町商店街は鳥追い女姿(?)でした。正午スタートの予定が雨のため午後4時過ぎに遅れて出発、梅川町中央バス営業所、沢町、役場前、大川町、黒川町と町を縦断しました。昭和34年に始まった商工観光まつりの花火大会、ほぼ時期を同じくした沖揚げ音頭の町文化財指定、ソーラン節踊りを含んだ保存会の結成など、現在の北海ソーラン祭りの核がしだいに出来あがっていききました。

また、同年10月6日から同月15日までの10日間の日程で開催された「よいち水族館まつり」でも、正調ソーラン踊りが8日午前11時半と午後2時半からの二回にわたって披露されました。新聞記事によると「開始直前にどつと団体客が押し寄せ伊勢神宮奉納全日本民謡踊り大会に本道代表として出演する正調ソーラン踊りを熱心に見物」とあります。

第1回目の北海ソーラン祭りは余市町、余市町観光協会、余市町商工会議所の共催で、昭和44年8月1日に始まりました。同日付の新聞には「きょう花やかに開幕」とあり、午後7時30分からの余市川納涼花火大会で2日間の幕が開けました。花火を打ち上げた場所は余市川の左岸、現在の野球場のレフト側でした。打ち上げた後に落ちてくる花火玉を回収するのが大変だったそうです。記事によると準備された打ち上げ花火や仕掛け花火は500発、近隣町村からの見物人で国道は大渋滞、余市橋、大川橋、田川橋からの花火の立ち見は禁止され、多くは堤防からで見物でしたが、1万人の人出でにぎわいました。

第61回「社会を明るくする運動」・余市町住民集会・ミニ集会

今年も本運動が7月1日(土)31日(月)の1か月間、全国で一斉に行われます。青少年の健全育成を願って、本町の関係団体の皆様が集会に参加します。集会では、小・中・高生の標語・作文の発表と表彰が行われます。本町が、犯罪や非行のない明るい社会になるようお願いを込めて、たくさんの方々の参加をお待ちしています。

また、地域ごとの「ミニ集会」も例年どおり開催されますので、お誘い合わせのうえご参加ください。

★余市町住民集会
◆日時・会場 7月14日(金) 午後3時30分 中央公民館

★地区別のミニ集会
黒川地区・大川地区・沢町地区で開催されます。

7月中の開催になります。日時は後日、区会を通して連絡する予定です。

◆問合せ 青少年対策室 (☎23-5745)

悩みごとには早めにご相談を！
● 青少年の相談 (☎23-5745)

● こどもの悩み相談 (☎23-7722)